

競 技 注 意 事 項

1 競技規則について

本大会は、2020年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに、本大会申し合わせ事項により行う。

2 練習について

(1) 練習は、指定された場所・時間を厳守し、係員の指示に従い安全に留意して実施すること。特に投てき練習については、監督指導のもと危険防止に努めること。

(2) 棒高跳の競技者は、大会当日試合の準備に支障のない範囲で審判員の指示により、陸上競技場内において跳躍練習を行うことができる。

(3) 練習会場使用日程

| | 10月15日(土) | 10月16日(日) |
|-------|--|---|
| 陸上競技場 | 【8:30～10:30】 ・トラック ・跳躍(棒高跳を含む) | 【8:00～10:30】 ・トラック ・跳躍 |
| 補助競技場 | 【8:00～18:00】 ・トラック ・跳躍(棒高跳を除く) ・砲丸投 | 【8:00～17:00】 ・トラック ・跳躍(棒高跳を除く) |
| 雨天練習場 | 【8:30～18:00】 | 【8:00～17:00】 |
| 多目的広場 | ・(男)やり投(8:20～10:20) ・(女)やり投(10:20～12:20) ・(女)ハンマー投(12:50～14:50) ・円盤投・ハンマー投(14:50～18:00) | ・(男)ハンマー投(8:30～10:20) ・(女)円盤投(10:20～12:10) ・(男)円盤投(12:10～14:00) |

* 各校監督の指導のもと安全に留意して行うこと。もし、事故が起こっても主催者は責任を負わない。

* 陸上競技場、補助競技場、雨天練習場の練習は、安全性確保のため以下の通りとする。

① 陸上競技場の使用について

- ・トラックの使用は、1～3レーンを周回用(中長距離)、4～6レーンを短距離・スタート用、7～9レーンをハードル用とする。

② 補助競技場の使用について

- ・1～2レーンは、周回練習のみ使用可とする。ただし、1レーンはトライアル、2レーンはジョグ練習とする。(集団ジョグは不可。)
- ・3～4レーンは、短距離、リレー練習を優先する。
- ・5～6レーンは、400mHを優先する。
- ・ブロックを使用してのスタート練習は、多目的広場側直走路4～7レーンとする。
- ・多目的広場側直走路9レーンは、女子100mH、11レーンは、男子110mHとする。
- ・テント等を設営しての独占的な使用をしない。

③ 雨天練習場の使用について

- ・ピストルの使用は禁止する。
- ・入場は第2ゲート側の入り口より入場することができる。第3ゲートからの出入りは禁止とする。
- ・シート等を敷いて独占的な使用は絶対にしない。
- ・ウォーキング、ジョギングなどペースが著しく遅いウォーミングアップまたは、動き作り程度の練習は行ってもよい。それ以外は補助競技場で行うこと。(跳躍ピットは設置しない。)
- ・ウォーキング、ジョギング等は左回りとし、逆走はしない。
- ・ハードル、スターティングブロックは使用できない。

3 招集について

- (1) 競技者招集所は、第2ゲート（1500mスタート付近）に設ける。
- (2) 招集完了時刻は競技時刻を基準とし、下記のとおりとする。

| | 招集開始時刻 | 招集完了時刻 |
|---------------|--------|------------|
| トラック | 25分前 | 15分前 |
| フィールド（棒高跳は除く） | 40分前 | 30分前 |
| フィールド（棒高跳） | | 60分前（現地招集） |

- (3) 招集完了時刻（移動開始）に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- (4) 招集の手順（○印のチェック等の第1コールは行わない。）
 - ① 競技者は、招集開始時刻に招集所競技者控所で待機し、点呼を受ける。その際、競技者係にアスリートビブス・スパイク・シューズ・衣類・持ち物等の確認を受ける。また、靴底の厚さチェックを行う。規定外シューズについても公認記録となるが、リザルトに注記する。
 - ② 競技者控所は当該種目の競技者以外の立ち入りを禁止する。
 - ③ 代理人による最終コールは原則として認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに2種目同時出場届を競技者招集所に提出する。
 - ④ リレー競技に出場するチームは、その種目の招集完了時刻の1時間前までに、オーダー用紙にオーダーを記入して競技者招集所に提出すること。なお、決勝においてもオーダーの変更の有無に関わらず、予選に準じて提出すること。
 - ⑤ 出場種目を棄権する場合は、招集開始時刻までに棄権届を競技者招集所に提出する。
 - ⑥ 棒高跳の点呼は競技場所で行う。点呼終了後は公式練習に入る。（ゴムバーを使用）
- (5) 競技場へは係員の指示・誘導により入場すること。

4 競技について

- (1) 競技者は、当該種目以外は本競技場内に立ち入ることはできない。
- (2) 短距離種目では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
- (3) トラック競技のセパレートレーンを使用する競技で欠場者が出た場合は、そのレーンを空けて行う。
- (4) トラック競技の判定は、全て写真判定装置（全自動電気計時1/100）で行う。
- (5) 4×100mリレーの第2・第3・第4走者は、主催者が用意したマーカー（1個）を使用することができる。マーカーは、出発係が現地で渡し、そのマーカー以外は使用してはならない。
- (6) 4×400mリレーの第3・第4走者のバトンの受け渡しは、コーナートップ通過順に内側より並んで行うこと。コーナートップの地点は、200mスタート地点内側に設置された黄旗で示される。並んだ順序は変えてはならない。なお、次走者はテークオーバーゾーンの内側より走り出さなければならない。
- (7) 男子5000m、女子3000m及び男女5000mW決勝においては、主催者の用意した別ナンバーカードを使用する。
- (8) 跳躍・やり投の競技者は、助走路の外側（走高跳では助走路内）に主催者が用意したマーカーを、2ヶ所置くことができる。マーカーはそれぞれの審判員が現地で渡す。それ以外は使用してはならない。ただし、走高跳の場合は、競技役員の承認を得たマークを使用することができる。
- (9) 走高跳・棒高跳におけるバーの上げ方は次の通りとする。

| | | |
|-----|----|--|
| 走高跳 | 男子 | 1m60・1m75(練習)・・・ 1m65 1m70 1m75 1m78 1m81 1m84 以降 3cm |
| | 女子 | 1m35(練習)…………… 1m40 1m45 1m48 1m51 1m54 1m57 以降 3cm |
| 棒高跳 | 男子 | 3m20・4m40(練習)・・・ 3m30 3m50 3m70 3m90 4m00 4m10 以降 10cm |
| | 女子 | 1m90・2m60・3m40(練習)・・・ 2m00 2m20 2m40 2m60 2m70 以降 10cm |

- ① 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になり優勝者が決まるまで、前記のバーの上げ方とする。
- ② 第1位が同成績の場合、順位決定のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。

天候その他の事情により、バーの上げ方を変更する場合は、跳躍審判長の決定による。

- (10) 携帯電話等の通信機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- (11) 競技中に起きた競技者の行為または順位に関する抗議は、規則第146条に基づき、正式に結果が発表されてから30分以内に、次のラウンドが行なわれる種目では15分以内に、当該競技者自身または、顧問が口頭で審判長に申し出ること。
- (12) 提出書類は下記のとおりとする。

| | 提出書類 | 用意してある場所及び提出場所 | 提出時間 |
|---|-----------|----------------|---------------|
| 1 | リレーオーダー用紙 | 競技者招集所 | 招集完了時刻1時間前まで |
| 2 | 2種目同時出場届 | 競技者招集所 | 招集開始時まで |
| 3 | 棄権届 | 競技者招集所 | 招集開始時まで |
| 4 | 記録証明書交付願 | 競技場内庶務受付 | 競技終了後随時(500円) |

5 競技用シューズについて

スパイクの長さは9mmをこえてはならない。また、走高跳およびやり投の場合は12mmをこえてはならない。これらのスパイクの直径は、先端が4mm以内でなければならない。また、スパイクの数は、11本以内であれば何本でもよい。

6 アスリートビブスについて

アスリートビブスは、指定された大きさ(タテ16cm×ヨコ24cm、またはタテ20cm×ヨコ24cm)で、ユニホームの胸部と背部に付けること。折り曲げたり、汚したりしないこと。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。また、トラック競技者は写真判定用の腰ナンバーカードを招集所で受け取り、パンツの左右後方に付けること。腰ナンバーカードは、競技終了後ゴール付近の返却場所に返却すること。

7 競技場の中に商品名のついた衣類・バッグ類を持ち込む場合について

陸上競技ルールブック2019・2020「競技会における広告および展示物に関する規定」の通りとする。
以下「抜粋」

(1) 上半身の衣類

a) ウインドブレーカー・Tシャツ・トレーナー類

製造会社名/ロゴ: 右胸または左胸1箇所

文字の高さ4cm以内、トータルのロゴの高さ5cm以内で40cm²以内の長方形。

b) ランニングベスト・レオタード

製造会社名/ロゴ: 右胸または左胸1箇所

文字の高さ4cm以内、トータルのロゴの高さ5cm以内で40cm²以内の長方形。

(2) 下半身の衣類

製造会社名/ロゴ: 1箇所

文字の高さ5cm以内、面積40cm²以内。

(3) ソックス

製造会社名/ロゴ: 1箇所 高さ3cm以内、面積6cm²以内。

(4) バッグ

製造会社名/ロゴ: 2箇所 面積25cm²以内。

(5) その他の衣類(帽子・サングラス・手袋など)

1つにつき1箇所: 面積6cm²以内。メガネ・サングラスなどは2ヵ所まで表示することができる。

(6) 商標違反時の対応

着替えさせる(裏返しに着させる)・テープを貼って隠す。

8 競技用具について

競技用具は原則として主催者が用意したものを使用すること。

ただし、棒高跳用ポール・やりに限り個人所有の物を使用することができる。個人所有のポールの検査は、招集完了（現地）時に跳躍審判員が行う。やりの検査は、競技開始60分前に第1ゲート入って左の用器具倉庫前（ゴール付近）で行う。練習用として個人の用具は、競技場に持ち込んではいならない。

9 競技の抽選ならびに番組編成について

(1) 予選におけるトラック競技のレーン順、ならびに跳躍・投てき競技の試技順は、プログラム記載の左側に示された番号順とする。

(2) トラック競技の決勝については、主催者が公平に組み、レース順を決定する。その結果を記録掲示板に掲示する。

(3) リレーチームの編成メンバーは、どのラウンドにおいてもその競技会のリレーまたは、他の種目に申し込んでいる競技者であれば出場することができる。ただし、どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち少なくとも2人はリレーに申し込んだ競技者でなければならない。最初のラウンドに出場した競技者は、その後のラウンドを通して、2人以内に限り他の競技者と交代することができる。

また、リレー競技に出場するチームは、同一デザインのユニフォームで参加しなければならない。

(4) トラック競技においてプラス出場者を決める場合、その最下位で同タイムがでた場合、（以下同タイム者という）は下記の方法で決める。

① 100m・200m・400m・800m・100mH・110mH・400mH・4×100mR・4×400mR 競技の場合

同タイム者については、判定写真を拡大し細部まで読取り着差の判定をする。それでも判定できないときは、レーンに余裕がある限り次のラウンドへ進むことができる。レーンに余裕のない場合は、同タイム者または代理人によって抽選する。抽選場所は本部とする。

② ①以外の種目の場合

同タイム者については、すべて次のラウンドに進めることとする。

10 表彰およびインタビューについて

(1) 本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から表彰およびインタビューは行わない。

ただし、これまで通り、各種目第1位に賞状・メダル、第2～3位までの入賞者に賞状を授与する。

(2) 男子・女子それぞれ最優秀選手の表彰を行う。

11 その他

(1) 大会期間中競技場で発生した傷害や疾病はメインスタンド下の医務室で応急処置を行うが、その後の責任は負わない。なお、参加者は健康保険証を持参すること。

(2) 更衣は玄関ロビー奥の男子・女子更衣室を利用することができる。ただし、貴重品は各自で保管すること。

(3) 記録証の交付を希望する競技者は、陸上競技場メインスタンド南エントランス入口・庶務受付係に記録証交付願及び交付料金500円を添えて申し込むこと。

(4) 記録は正面玄関前の記録掲示板に掲示する。

(5) 競技場内でテント等を張れる場所は、バックスタンド及び両サイドスタンドの中段より上部に限る。ただし、階段付近および車椅子スペースへの設置は不可。なお、陸上競技場前の芝部分及び補助競技場、多目的広場にはテント等を設置してはいけない。

(6) 横断幕・部旗・のぼり旗を張る場合は、バックスタンド及び両サイドスタンドの中段より上部を許可する。ただし、個人名入りの横断幕等は禁止する。

(7) **集団での応援や大きな声を出しての応援は全面禁止**とし、バックスタンド及び両サイドスタンドにおいても、フィールド種目の妨げにならないようにすること。また、集団での返事、拍手についても同様である。なお、スタンドでの観戦時は**1席以上間隔を開け密の状態にならない**ようにすること。

(8) その他、詳細については事前監督会議で説明する。